

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	老年看護学実習 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	実習施設
担当教員	中村 裕子	実務経験と その関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》 地域、施設、病院実習を通して老年期にある対象の特徴と加齢現象を踏まえ、生活の質を高め、生きる力を支える看護が展開できるよう知識、技術、態度を習得する。地域で暮らす健康な高齢者とのコミュニケーションや生活援助を通して対象が大切にしている信念、価値観に基づいたその人らしい生活について理解する。地域、在宅、施設など多様な場でのチーム医療を通して看護の役割について考える機会とする。						
《成績評価の方法と基準》 ルーブリック評価表による能力評価【意欲・関心・態度】① 対象やその家族に関心を示し、寄り添い話を聞こうとする態度や行動がとれる② ② 看護学生としての責任と自覚を持ち、積極的・主体的に実習に取り組める【思考・判断】① 対象の生活史から生き方や価値観を考えることができる。② 対象の反応から、コミュニケーションや行った看護援助に対してのふりかえりができる。【技術・表現】① 対象の特性を考えながら言語的・非言語的コミュニケーションをとることができる。② 対象との関わりをとおして身体的状況、日常生活状況が把握できる。③ 対象の身体状況に合わせ、残存機能を活かした日常生活援助ができる。【知識・理解】① 対象の生活している環境や行われているサービス内容が理解できる。② 対象の加齢による身体的・精神的・社会的な特徴について理解し説明できる。③ 対象者を支える多職種の役割や社会や地域との連携について理解できる。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 老年看護学概論						
《授業外における学習方法》 実習オリエンテーション(①実習要項説明 ②実習記録について ③実習マナー ④カンファレンスについて ⑤実習事前学習 ⑥ビジョンゴールシートの記載) 実習後は、実習の学びをまとめ振り返りを行う						
《履修に当たっての留意点》 実習要項を熟読し、必要な事前学習をして臨む。バイタルサイン測定など基本的な看護技術についても自己演習し復習しておく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	地域で生活している健康な高齢者の生活を理解する。 健康な高齢者の余暇活動について理解する。	所持している教科書・参考書、事前学習	実習要項を読み、地域実習で何を学ぶのかをイメージする。 ビジョンゴールシート記載。 地域の取組みについての学習。	
		各コマにおける授業予定	介護予防教室・イベントなどに参加し、共に活動する中で高齢者を尊重した態度でコミュニケーションをとる			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	健康な高齢者の地域の中での役割、高齢者について理解する。	所持している教科書・参考書、事前学習	加齢に伴う三側面の変化や高齢者とのコミュニケーション、生きてきた時代背景などについての学習。	
		各コマにおける授業予定	地域で生き生きとその人らしく生活する高齢者について理解したことを意見交換できる			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	病院・病棟・施設のオリエンテーションを受け、病院・施設の構造と機能、役割、対象者の特徴について知る。	所持している教科書・参考書、事前学習	実習要項を読み、病院・施設実習で何を学ぶのかをイメージする。病院・施設の機能や役割、対象者の特徴についての学習。	
		各コマにおける授業予定	病院・病棟・施設のオリエンテーションを受ける。 施設の一日の流れや行われている日常生活援助サービスの見学。 担当となった受け持ち患者・利用者への挨拶			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	老年期にある対象の生活史や価値観を理解し、尊重した態度がとれる。	所持している教科書・参考書、事前学習	高齢者とのコミュニケーション、生きてきた時代背景などについての学習。受け持ち患者・利用者の介護度や疾患、症状について学習。	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者・利用者の情報収集(なるべく関わりを通して)受けている日常生活援助やサービスの見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、レクリエーション、コミュニケーションなど)			
第5回	実習	授業を通じての到達目標	担当患者・利用者とのかかわりを通して高齢者の身体的・精神的・社会的特徴や対象の全体像を把握する	所持している教科書	老年期の発達課題や加齢に伴う三側面の変化について学習。受け持	

5回	百形式	各コマにおける授業予定	受け持ち患者・利用者の情報収集。 受けている日常生活援助やサービスの見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、レクリエーション、コミュニケーションなど)	科書・参考書、事前学習	ち患者・利用者の受けているサービス、関わっている職種などについての学習。
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者・利用者とのかかわりを通して高齢者の身体的・精神的・社会的特徴や対象の全体像を把握する	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者・利用者の情報からアセスメントし、現在把握している全体像を記録として整理していく。
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者・利用者の受けている日常生活援助やサービスの見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、レクリエーション、コミュニケーションなど)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	前半の実習で得られた学びや後半の課題を明確にする。	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者・利用者の情報からアセスメントし、現在把握している全体像を記録として整理していく。
		各コマにおける授業予定	前半の実習で経験したことや体験したことをカンファレンスで話し合い、意見交換をする。中間自己評価を行い振り返り、後半の課題を見出す。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	加齢に伴う変化や生活している環境を考慮し個別性を踏まえた生活援助について理解できる	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者・利用者の疾患・障害、自立度、生活リズムを踏まえた個別性のある援助について学習。
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者・利用者の受けている日常生活援助やサービスの見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、レクリエーション、コミュニケーションなど)多職種のカンファレンスなどあれば見学・参加する。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	デイケア、デイサービスの機能、役割、対象者の特徴について知る。	所持している教科書・参考書、事前学習	デイケア、デイサービスの機能、役割、対象者の特徴についての学習。
		各コマにおける授業予定	デイケア、デイサービスのオリエンテーションを受ける(利用者の特徴、介護度、サービス内容、安全対策、災害対応、感染防止対策) 施設の一日の流れをシャドウイング		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	デイケア、デイサービスでの多職種の役割や連携について知る。	所持している教科書・参考書、事前学習	デイケア、デイサービスで高齢者を支える多職種の連携についての学習
		各コマにおける授業予定	利用者の受けているサービス内容、健康チェックの見学・実施。(バイタル測定、コミュニケーション、レクリエーション、リハビリ など) 開催されるイベントに参加し、利用者と共に活動する		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活を支える多職種の役割や社会・地域との連携について理解する。	所持している教科書・参考書、事前学習	高齢者を支える多職種の連携やそれぞれの役割、社会資源、サポートシステムについての学習
		各コマにおける授業予定	受け持ち患者・利用者の受けている日常生活援助やサービスの見学、実施(バイタルサイン測定、環境整備、レクリエーション、コミュニケーションなど)多職種のカンファレンスなどあれば見学・参加する。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習で得られた学びを口頭、記録で表現できる。	所持している教科書・参考書、事前学習	受け持ち患者・利用者のアセスメントシート、全体像を記録として整理する。 評価表 自己評価
		各コマにおける授業予定	実習で経験したことや体験したことをカンファレンスで振り返り、ビジョン・ゴールに対する成果・評価の発表を行い、意見交換をする。		